

フィリピンの大学との国際プログラムの教育効果の可視化と二国間比較

ー対面とオンラインの比較検討ー

高橋 大生（聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部理学療法学科）

<内容紹介>

聖隷クリストファー大学では、「国際的に活躍できる医療・福祉の専門職」を育てることを目指し、フィリピンのマリアノ・マルコス州立大学（MMSU）と一緒に学生の交流プログラムを行っています。

この研究では、私たち教員がフィリピンに直接出向いて行った対面授業と、日本からオンラインで行った授業が、それぞれ学生にどのような影響を与えたのかを比較しました。授業のテーマは、「首や肩の痛みに対する理学療法の実践方法」でした。

授業後には、学生たちがどれだけ自信を持てるようになったかや、自分の考え方にどんな変化があったかをアンケートで調べました。その結果、対面で授業を受けた学生の方が「自分に自信が持てるようになった」「物事を深く考えるようになった」という傾向が見られました。一方で、授業の満足

度や内容の理解度については、対面もオンラインも差はありませんでした。

<まとめ>

オンライン授業でも知識はしっかり学べますが、教員と直接やりとりできる「対面授業」には、学生の内面により深い影響を与える力があることがわかりました。海外との交流がしやすくなった今だからこそ、「直接会って学ぶことの価値」を大切に、理学療法教育の発展につなげたいと考えています。